山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

センターだより第 225 号（通巻第 292 号）

2026 年 9 月 28 日発行

コンテンツ一覧

■ 免許法認定講習　実施報告

■令和８年度　第１回教師力養成講座　実施報告

■第３回　やまなし情報教育推進室学習会　実施報告

■令和８年度　前期の ICT 支援学生の研修と活動報告

■はじめての生成 AI　vol.05

■10・11 月の主な予定

山梨大学免許法認定講習（情報）の開講

やまなし情報教育推進室

山梨大学教育学部では高等学校での情報Ⅰの必履修化、大学入学共通テストにおける「情報」の導入等を受け、情報教育を担う教員の専門性向上と、高等学校教諭一種免許状（情報）を有する教員の拡充を目的として、一昨年度から免許法認定講習を開講しています。高等学校教諭免許状を有する現職教員等にとって、新たに「情報」の免許状取得を目指すことのできる貴重な学びの機会となっています。

本講習では、免許取得に必要な 12 科目を、1 年あたり 4 科目ずつ、3 年間にわたって計画的に開講します。所定の単位を修得することで、高等学校教諭一種免許状（情報）の取得につなげることができます。講師は、専門性を有する本学教員や学校現場での指導経験が豊富な学外講師が担当し、情報教育の基礎から授業づくり、情報モラル・情報倫理まで、学校現場で求められる知識と実践力を学べる内容としています。また、現職教員が勤務と両立しながら受講できるよう、夏季休業期間や土曜日・日曜日を中心に日程を設定しています。

さらに、本学が受講料・教材費を全額補助していることも本講習の大きな特徴です。大学が費用面まで支援しながら、現職教員等の新たな免許取得を後押しする取組は、全国的に見ても特色あるものといえます。8 月には「情報ネットワーク」と「情報プレゼンテーション演習」を開講し，9 月には「情報ネットワーク演習」、11 月には「情報科教育法Ⅱ」の開講を予定しています。



（「情報ネットワーク」の様子）



（「情報プレゼンテーション演習」の様子）

来年度以降の開講については現在検討中です。最新の情報は、やまなし情報教育推進室の Web ページで発信していきます。

https://www.yamanashi.info/

令和８年度 教師力養成講座① 実施報告

１．実施日　令和８年７月１５日（水）１３：１０～１５：４０

２．開催場所　A 会議室（対面）

（都合により受講できない学生はオンデマンド）



３．次第

（１）開会行事
（２）講座
（３）閉会行事
　　希望者による相談（１５：５０～１６：２０）

４．受講者数　８７名（対面）

７月１５日（水）、山梨大学教師塾プログラム事業の一環として、「第１回教師力養成講座」を開催した。本講座は、学部３年生を対象に、現場経験豊富な講師のワークショップを通して、「後期実習への目標設定と指導力の向上」を目的に企画された。当日は、対面形式で行われ８７名が受講した。

内容は、法政大学の辻本昭彦先生を講師としてお招きし、「自己肯定感の育て方！～「いいところ探し」から始まる、君の教育実習プレイブック～」というテーマでご講義いただいた。講義中はグループワークが多く行われた。その際、客員教授の先生方にはグループワークの様子を見守っていただき、ご指導ご支援をいただいた。当日、欠席した学生（他の授業、集中講座、病欠）は、後日オンデマンドで受講した。

受講後には、オンラインでのアンケートを行った。アンケートの内容から受講した学生にとって多くの学びがあった講座であることが伺える。自由記述欄にも多くの前向きな意見がよせられた。

山梨大学教師塾プログラム 2026・教師力養成講座①アンケート集計結果

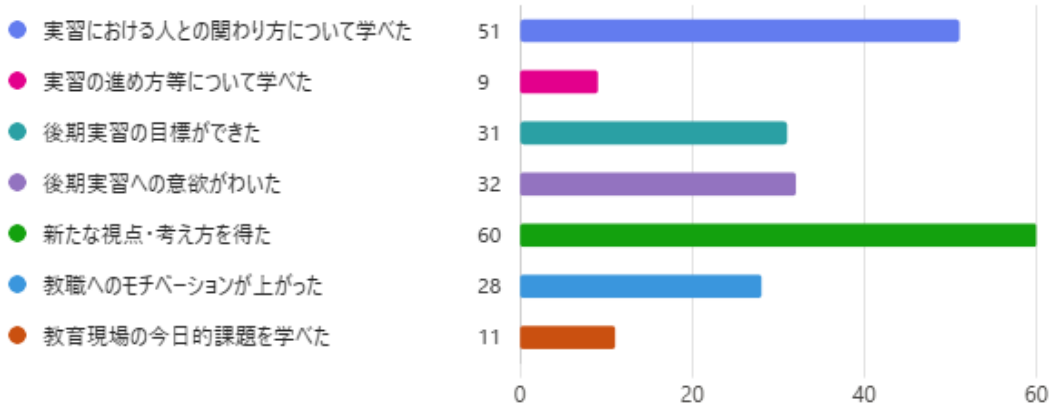
【アンケート回答数８５】

（１）辻本昭彦先生の講義について、当てはまるものを次から１つ選んでください。

よかった	80
まあ、よかった	5
あまり、よくなかった	0
よくなかった	0



（２）辻本先生の講義を受講して、当てはまるものを次から選んでください。（複数回答可）



５．アンケート結果の分析

（１）に関わって

・「よかった」が８０名、「まあ、よかった」が５名で、不満を示す回答がなかった。講義に対して、満足していることが伺える。

（２）に関わって（複数回答可）

・「新たな視点・考え方を得た」（６０名）

本講義は「成績と自己肯定感は直結しない」といった新たな視点をもたらし、受講生の意識に深い影響を与えた。感想では「成果だけでなく努力の過程（プロセス）を褒める大切さを知った」という決意や、「グループワークを通じてありのままの自分を受け入れられた」といった実感が寄せられた。従来の固定観念を崩し、子どもや自分自身と前向きに向き合う指導へのヒントを得られる、非常に実りの多い講座となった。

・「実習における人との関わり方について学べた」（５１名）

本講義はグループワークや自己肯定感を育むワークを通じ、実習に向けた人間関係の築き方に確かな手応えを与えるものとなった。感想では「学生同士の対話で他者の価値観に触れられた」という気づきや、「成果でなく過程を褒める具体的な関わり方が見えた」「話を聞き感謝を伝える大切さを学んだ」といった意見が挙がっていた。受講生自身が温かい関わりを体験することで、実習現場で子どもに寄り添う姿勢を固める機会となった。

・「後期実習への意欲がわいた」（３２名）

本講義は自己肯定感への深い理解を促し、受講生が後期実習に向けた明確な目標を見出す契機となった。感想では「前期実習での生徒との関わり方に悩んでいたが向き合い方のヒントが得られた」という前向きな変化や、「子どもたちの良いところや成長のプロセスをしっかり見たい」「主体性を育む接し方を意識したい」といった決意が述べられていた。講義で得た学びが、実習に対する具体的な意欲と明確な目標設定に繋がったことが伺えた。

・「後期実習の目標ができた」（３１名）

本講義は受講生の自信や実践的な気づきを引き出し、後期実習に向けた強い意欲を高める機会となった。感想では「自分の強みや武器が分かり、それを活かして子どもと関わりたい」「ワークで喜びを感じた経験を実際の教育現場でも実践してみたい」といった積極的な言葉が寄せられていた。講義で得た深い学びと成功体験が原動力となり、受講生が前向きな姿勢で実習へ臨む姿勢が顕著に表れていた。

以上のことから、本講義は「後期実習への目標設定と指導力の向上」という目的において、多くの学生にとって有意義であったと言える。特に新たな視点の獲得や人との関わり方といった点で成果が見られ、後期実習への意欲を高めるとともに目標を見つける良い機会となった。

６．学生の感想より
（アンケート自由記述欄の回答から生成 AI にて概要を作成）

本講義では、グループワークや体験型ワーク（ダイヤモンドランキングや「いいところ探し」等）を通じ、自己肯定感の仕組みと指導のあり方を深く学びました。

主な学びとして、自己肯定感は「達成 ÷ 要求」のバランスに左右され、学力や結果とは必ずしも一致しないこと、そして「結果ではなく過程（プロセス）を褒めること」が主体性を育む鍵であると実感しました。

他者からの評価を通して自らの強みや良さを再発見し、自信を得ると同時に、講師の飽きさせない授業展開や話し方からも多くの示唆を得ました。価値観の異なる仲間との対話を通じて考えをすり合わせる重要性を知り、子ども一人ひとりと真摯に向き合う姿勢や、今後の教育実習・実践に向けた具体的で前向きなヒントを得られる貴重な時間となりました。

第 3 回やまなし情報教育推進室学習会　開催報告

やまなし情報教育推進室

2026 年 8 月 18 日（火）9:30～12:00、山梨大学甲府キャンパス Y 号館（総合研究棟）Y-12 教室にて、「第 3 回やまなし情報教育推進室学習会」を開催しました。

今回の学習会では、「生成 AI は、授業づくりをどのように変えるのか？」をテーマに、スタディサプリ「情報Ⅰ」講師、青山学院中等部・青山学院大学非常勤講師の安藤昇先生をお招きしました。

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員や教育委員会関係者など、多くの皆様からお申し込みをいただき、定員に達したため、申込締切日前に受付を終了しました。

学習会概要

今回の学習会では、生成 AI を授業にどのように位置づけ、児童生徒の学びをどのように支えていくのかについて、講演・演習と対談・参加型ディスカッションを通して考えました。

■ 開会挨拶とやまなし情報教育推進室の紹介



はじめに、附属教育実践総合センター長・やまなし情報教育推進室長の新野貴則教授から挨拶があり、やまなし情報教育推進室の設立趣旨やこれまでの取組について紹介しました。

やまなし情報教育推進室では、地域の学校における情報教育の推進や研究成果の地域への還流を目的として、学習会・フォーラムの開催、オンラインコンテンツの配信、免許法認定講習、校内研修等への講師派遣、ICT 支援学生の派遣など、さまざまな取組を進めています。

■ 第 1 部　生成 AI を活用した授業づくり



第 1 部では、安藤昇先生から、生成 AI の最新動向や学校現場における具体的な活用事例を踏まえながら、生成 AI 時代の授業づくりについてご講演いただきました。

生成 AI を単に便利なツールとして利用するのではなく、児童生徒がどのように考え、試行錯誤しながら学習を進めたのかという「学びの過程」に注目することの重要性について、具体的な事例を交えてお話しいただきました。

また、生成 AI や各種デジタルツールを活用することで、これまで成果物を中心に捉えていた学習評価から、児童生徒の思考の変化や学習の履歴を含めて捉える評価へと広げていく可能性についても紹介されました。

参加者自身が PC を操作しながら体験する場面もあり、現在の生成 AI ができることや、その教育利用の可能性を具体的に考える機会となりました。



■ 第 2 部　対談・参加型ディスカッション

第 2 部では、安藤先生と本学の稲垣俊介准教授による対談・参加型ディスカッションを行いました。

第 1 部の内容を踏まえながら、「生成 AI は授業づくりをどのように変えるのか」「生成 AI 時代に教師に求められる役割とは何か」といったテーマについて意見を交わしました。



生成 AI によって、これまで時間を要していた作業を効率化できる一方で、そこで生み出された時間を児童生徒との対話や学習の見取りにどのように還元していくかという点も重要な論点となりました。

また、参加者の皆様からも質問や意見をいただき、生成 AI の具体的な学校現場での活用方法、学習評価の在り方、これからの教師の役割などについて議論を深めました。

学習会終了後のアンケートには 29 名から回答があり、「満足した」19 名（65.5％）、「まあ満足した」10 名（34.5％）と、回答者全員から肯定的な評価をいただきました。「生成 AI 活用の最前線を知ることができた」「成果物だけでなく、その過程にも注目することが重要だと感じた」などの感想が寄せられた一方、実際に AI を操作する時間や演習時間をさらに設けてほしいという意見もありました。今後の学習会の企画にも、こうした声を生かしていきたいと考えています。

また、安藤先生のご厚意により、当日の教材の一部を学習会終了後 1 か月間、やまなし情報教育推進室 Web ページで公開しました。

今回の学習会では、生成 AI の最新動向を知るだけでなく、生成 AI の発展によって授業や学習評価がどのように変わるのか、そして、その中で教師がどのような役割を担っていくのかについて、参加者の皆様とともに考える機会となりました。

やまなし情報教育推進室では、今回いただいたご意見やアンケート結果も踏まえながら、今後も学校現場のニーズや新たな教育動向に応じた学習会・フォーラムを企画していきます。

2026 年度前期の ICT 支援学生の研修と活動

やまなし情報教育推進室

1. はじめに



ICT 支援学生ボランティアは、学生が附属小学校・附属中学校の授業に入り、学校現場における ICT 活用と児童生徒への関わりを実践的に学ぶ取組です。2026 年度前期は、1 年生 1 名、2 年生 2 名の計 3 名が参加しました。5 月から 7 月までに計 6 回の研修を行い、6 月から 7 月にかけて附属小学校・附属中学校で継続的に活動しました。

活動前には、「ICT にあまり自信がない」「児童生徒にどこまで声をかけてよいか分からない」といった不安も聞かれました。そこで、活動の進め方や児童生徒との関わり方を研修で確認するとともに、活動後には記録を残し、次の研修で迷いや気づきを共有しました。

現場での活動、振り返り、研修を往還させることによって、一人ひとりの経験を全員の学びへと広げることを大切にしました。

2. ICT を使う場面、使わない場面

附属小学校では、紙で三角形を作って確かめる活動と GeoGebra による検証を組み合わせた算数の授業、ボタン付けの手順動画を児童が自分のペースで確認する家庭科の授業、タブレットを用いた検索活動など、多様な ICT 活用が見られました。

附属中学校の技術科では、CAD による作図、Scratch、アクティビティ図、レポート作成などが行われました。学生は、操作に困っている生徒を見つけて支援したり、考えを整理するための視点を提案したりしました。

一方、たてわり活動や家庭科、算数、社会科など、ICT をほとんど使用しない授業にも参加しました。当初は、「ICT 支援学生として何ができるのか」と戸惑う姿も見られました。しかし、活動を重ねる中で、教室全体を見渡すこと、教員の説明を十分に聞けていない児童に声をかけること、話し合いを促すこと、児童生徒の成長や教員の働きかけを丁寧に見取ることも、重要な支援の一つだと捉えるようになりました。



ICT を使うかどうかにかかわらず、授業の目的に沿って児童生徒の学びを支えることが、活動の基盤となりました。

3. 「教える」から「一緒に考える」へ

前期の活動で最も大きく変化したのは、学生の「支援」の捉え方です。活動当初は、自分が端末やアプリの操作を理解し、質問に正しく答えなければならないという意識を強くもっていました。

しかし、実際の授業では、自分にも分からない操作や、すぐには答えの出ない問いに出会いました。そのような場面で、担当教員に確認したり、生徒と一緒に試したり、必要に応じて周囲の生徒に協力を求めたりする経験を通して、すべてを一人で教えることだけが支援ではないと学びました。

また、端末に向かっている児童生徒は、外から見ただけでは困っているかどうかが分かりにくいものです。「今どんな感じですか」「どこまでできましたか」と声をかけることで、初めて進捗や迷いが見えてきます。学生は、答えをすぐに示すのではなく、「別の言葉で検索してみたらどうだろう」「ほかの視点から考えるとどうなるだろう」と問い返し、児童生徒が自ら考えられるように支えることを意識するようになりました。

活動当初は、児童生徒に話しかけることに不安を感じていた学生も、後半には「話したがっている児童は意外に多い」と捉えるようになりました。継続して同じ学級に入る中で、「この間の先生だ」と声をかけられたり、生徒から困りごとを話してもらえたりする場面も生まれました。支援には、操作を補助する力だけでなく、児童生徒が安心して質問できる関係を築く力も必要だと実感しました。

さらに学生は、ICT を使えばよいという見方にとどまらず、紙の方が取り組みやすいと感じる生徒がいること、操作に気を取られて学習内容について考えることがおろそかになる場合があること、生成 AI を利用した学習をどのように評価するかといった問題にも目を向けました。

「なぜ、ここで ICT を使うのか」を考える視点が芽生えたことも、前期の大きな成果です。

4. 今後に向けて

2026 年度前期の活動を通して、学生は ICT の操作技術だけでなく、児童生徒を見取り、声をかけ、一緒に考え、必要に応じて人と人をつなぐことを学びました。

後期も、活動後の振り返りと研修を継続し、学年や教科による ICT 活用の違い、児童生徒の考えを深める声かけ、学習の目的に応じた ICT 活用について検討していきたいと考えています。

ICT 支援学生の活動は、附属学校の学習活動を支えると同時に、学生が教師として児童生徒をどのように見取り、関わるかを学ぶ機会にもなっています。

今後も、学生が安心して現場に入り、経験を言語化しながら成長できる取組として、より充実させていきたいと考えています。



やまなし情報教育推進室

はじめての 生成AI

vol.05

―毎回テーマを決めて生成AIについて解説します―

AIと生きる、これからの未来

前号（vol.04）では、生成AIを活用するうえで留意するべきことを取り上げました。今号はこれから生成AIを活用しようとするあなたへ向けたメッセージです。

「AIが進化したら、私たちの仕事はなくなるの？」そんな不安を感じるかもしれません。でも、心配はいりません。AIはあくまで道具です。意思（やりたいこと）を持つ人間こそが、これまで以上に重要になる時代がやってきます。

AIにはできない、人間だけの３つの力

AIは計算や処理は得意ですが、「心」はありません。だからこそ、以下の３つは、人間にしかできないこととして残ります。

① **意思を持つ（Will）**
何を作りたいか、どんな課題を解決したいかという問いを立てること

② **責任を取る（Responsibility）**
最終的な決断を下し、その結果に責任を持つこと

③ **感情に寄り添う（Empathy）**
相手の気持ちを想像し、信頼関係を築くこと



AIを最強の相棒へ

ギリシャ神話のケンタウロス（半人半馬）のように、「人間の判断力」と「AIの処理能力」を合体させましょう。人間 vs AI で戦うのではなく、人間 + AI になることで、一人では到底できなかった大きな成果を出せるようになります。

これまで：1から10まで全部自分でやる

これから：面倒な作業はAI、創造的な判断は人間



生成AIの活用のポイントは「習うより慣れろ」です。まずは、何でもいいので話しかけてみてください。「今日の夕飯、何がいい？」「励まして！」そんなちょっとした会話から、新しい未来のパートナーシップは始まります。

「はじめての生成AI」シリーズは今号をもって終了します。ありがとうございました。

[制作・編集担当　山梨大学 教育学部附属教育実践総合センター やまなし情報教育推進室　三井　一希]

10 月～11 月の行事予定

教員採用試験対策講座

○フォローアップ相談会2
10月 1日（木）4年生 、M2

○時事通信出版局による基礎ガイダンス
-教員採用試験の最終動向と学習対策-
10月 2日（金）2･3年生、M1（次年度教採受験者）

○学内模試 1
10月21日（水）2･3年生、M1（次年度教採受験者）

○第 1 回　教員採用試験大学推薦説明会
10月21日（水）2･3年生、M1
（申請時期が早期の自治体希望者は必ず出席）

○論作文作成演習
10月22日（木）、27日（火） 3年生､M1（次年度教採受験者）

○教員採用試験に向けての相談期間（教採合格者によるアドバイス）
11月 9日（月）～13日（金） 2･3年生　※11日（水）は除く

○学内模試2
11月25日（水）2･3年生、M1（次年度教採受験者）

進路支援

○進路支援ガイダンス
10月 7日（水）2年生全員
3年生全員（ウォーミングアップ講座 1 を含む）

○学生面談
10月28日（水）、11月4日（水）、11日（水）　3年生全員

教育ボランティア

○後期ボランティアガイダンス
10月14日（水）全学年

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター
（TEL）055-220-8325　（E-mail）edjissen-as@yamanashi.ac.jp
（URL）https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/